

風はPLCから

早くも3月になり、今年度も残りわずかとなりました。第3号では、院生の1年を振り返っての感想や来年度に向けた意気込みなどを中心に紹介します。院生の声を参考に、教職大学院での生活をイメージしていただければ幸いです。

～ 1年間の振り返りと2年次に向けて ～

この1年、教職大学院では講義や実習を通して様々なことを学び、経験してきました。2年次になると、現職学生は、それぞれの原籍校に戻り探究を進めます。学部卒学生（ストマス）は、公立の学校で実習させていただき、自身の課題解決に向けた探究を行います。最終号では、1年間の振り返りとこれからの意気込みについて語っていただきました。

～ 学部卒学生の声 ～

私は教職大学院に入り、教師として必要な知識を身に付けたり理論に基づいた授業実践を行ったりするなど様々な面で成長することができました。学部時代は自分が授業をすることで頭がいっぱいになっていましたが、講義の受講や公開研究への参加、授業実践などを通して、「子どもにどのような力を身に付けさせるか」「子どもがどのように学び、その学びを教師がどのように見取って授業を展開するか」といった、より具体的で緻密な授業づくりを学びました。来年度は、自分の探究テーマである国語科教育の論理的思考力の育成を、思考ツールを用いて実践し、今までの学びを生かすことができるような1年にしたいです。

この1年は、教育観が変容する1年でもあり、同期とのつながりを実感できた1年でもありました。附属中学校の実習に加え、離島・へき地の実習や特別支援学校での実習という学部時代には経験できなかった実習を経験することができ、多様な教育のあり方を感じるとともに、教育の根本的な部分を見つめなおすことができました。大学院の講義や実習では困難さを感じる場面もありましたが、その困難さを同期との助け合いによって乗り越えることができました。このように、前期で生まれたつながりを後期ではより強固なものにすることができました。2年次は、同期とのつながりだけでなく、大学院の修了生や現場の先生とのつながりも構築し、さらに成長できる1年にしたいです。

今年度は、大学院での講義と実習が多くあり、たくさんのことを学ぶ機会に恵まれました。中でも高度化実践実習Ⅰや重点領域実践実習Ⅰ・Ⅱでは、講義で学習したことを授業の中で実践できる貴重な機会となりました。また、そこで出た課題等は、来年度の1年間を通じた実習の中で改善を目指していきたいです。その実習のために、今現在も、先生方のご指導を頂きながら探究を進めているため、学びの濃い1年となりました。来年度に向けて、更に教科について知識を深めたり、自分が目指す教師像を固めた上で実践に臨めるようにしていきたいです。

この1年での大学院生活を通して、教師として大事なことを多く学びました。中でも特に実習が多く、附属中学校、離島の学校、特別支援学校などそれぞれの特色がある場所で、これまでにない経験をすることができ、知識や経験の少ない私にとって、これから生きてくる貴重なものになったと思います。実習や講義を受けて、自分自身の課題や目標、目指したい教師像などを見つけることができたので、来年度は実習で教師としての資質を高めるだけでなく、探究にも力を入れ、多くのことを吸収しながら、より深く学んでいきたいと思っています。

今年1年は、小学校教員免許取得プログラム（長期在学履修制度）を利用して、学部での小学校教員の免許科目をほとんどの時間を使って履修しつつ、自己の探究テーマを探しました。その中でも、自分なりの時間の使い方を見つけ、来年度の探究に向けた準備を進めることができました。また、学部講義以外の時間を使い、他の院生と関わることで考えを広げるとともに、次年度の動きを知ることもできました。このプログラムは、3年間という時間の中で探究できるという強みがあるため、今後、自分自身を成長させることができるようにより深く探究していきたいです。



～ 現職学生の声 ～



「21, 47, 638, 32550」—これらの数字は、私の1年間の学びと深く結びついています。それぞれ履修した科目数、購入した本の冊数、読んだ英語の原書のページ数、そして講義の総時間（分）です。これらの数字を見ると、大学院生活の一端が垣間見えるでしょう。予習やレポート提出に追われる厳しい時期もありましたが、すべての学びがより高度な教育へとつながり、私が求めていたものでした。振り返れば、教職大学院での経験は非常に大きな財産となっています。大学院入学前は経験だけを頼りにしていましたが、今では教育を支える理論や知識を身につけ、これからは自信をもって教育に携わることができると確信しています。

まさかこの年齢でまた学ぶ機会をいただけるとは！この1年間、現場を離れて学ぶ貴重な機会をいただき、多くの学びと出会いに感謝しています。探究や授業では「理論と実践の往還」で戸惑ったり、文献の難しさに頭を抱えたり、壁にぶつかってばかりでしたが、それさえも自分の教育に関する「観」を見直すきっかけになったと思います。また、他の校種の先生方やストマスの方々と率直に意見を交わすことの大切さや面白さを体感できたことも大きな収穫です。来年度は、私の学びや「学び続ける姿」を生徒にどのように伝えていくかが課題だと思います。この1年間の経験を糧に、生徒たちに向き合っていきます。



教職大学院の風景



学部卒学生も現職学生も
一緒になって
意見を交わします

成果報告会の
様子↓



授業づくりも
とことん!→



←研究室は
こんな雰囲気